

【提案シートの内容】	生徒からの質問	【質問に対する市長の考えなど】	担当課
<p>【東幡豆のトンボロ干潟の知名度アップを考える】 家の近くには、トンボロ現象が起こる「トンボロ干潟」があります。幼いころからトンボロ干潟を訪れては、生き物を観察したり、遊んだりしてきました。トンボロ現象が起こる干潟は、日本中を見てもとても珍しいということを知り、トンボロ干潟で幡豆のPRができないか考えてみました。現在、日本でトンボロ現象が起こる場所は10箇所あります。トンボロ現象は、自然の神秘を体感できる観光スポットとして人気があるようです。中でも鹿児島湾に浮かぶ無人島の「知林ヶ島」は、今とても人気のある観光スポットです。知林ヶ島が人気となったのは2015年5月。鹿児島県指宿市で知林ヶ島「砂の道」の愛称を公募し、全国から寄せられたたくさんの応募の中から「ちりりんロード」に決定したことが始まりです。また、愛称に合わせてロゴマークの作成や観光客を呼び込む様々な工夫も行われました。知林ヶ島は、陸地とつながるので、縁結びの島としても有名で、2つのオブジェが重なってハートの形に見える「Chirin's Heart」や、入り口付近で砂の道を見渡せる場所にある「誓いの丘」は、若い人たちに人気の仕掛けです。また、「CHI貝」という絵馬に見立てた貝に願いを書いて奉納もできます。島内の南展望台付近にある「幸せ繋ぐ投函箱」は、「幸せ繋ぐメッセージカード」に、大切な人へのメッセージを書いて、知林ヶ島から想いを伝えることもできます。トンボロ現象で現れる砂の道に愛称をつけることや、知林ヶ島を訪れた人たちがワクワクするような体験ができる仕掛けをすることで、観光地化が進み、地元の活性化も進んだと思います。</p>	<p>【質問1】 東幡豆町のトンボロ干潟について、地元への愛着を深めたり、知名度を高めたりするため、名称を募集してはどうでしょうか。</p>	<p>【市長】提案シート1・提案シート2に共通した回答 西尾市の魅力のPR活動として、今、SNSを活用した情報発信を行っており、公式インスタ「にしおじかん」というアカウント名で観光スポットなどを紹介しています。西尾市の観光振興を中心となって行っている西尾市観光協会という団体があり、Webサイトの運営やSNSを活用した情報発信、旅行会社への営業活動などを行っています。PR活動のポイントは2つあると思います。1つ目は、いかに市民の力を借りるかということです。SNSの影響力は非常に大きく、その典型的な例が佐久島です。島での1枚の写真が撮りたいために遠方から足を運んでくれます。行政も西尾の魅力を発信しますが、個人のSNSの利用率が高まり、市民の皆さんも素敵な写真を投稿しています。個々が良いと思う西尾の魅力をどんどん発信してもらうことが西尾の知名度を高める大きな力になると思います。「西尾の魅力を知って欲しい」という同じ思いで行動してくれる仲間をいかに増やすかが重要です。2つ目は、固い頭で考える観光の取り組みは、うまくいかないと感じます。いかに遊び心を入れながら、人の心を掴めるようなストーリーを作れるかが大事だと思っています。今は、良い景色が見れる、美味しいものが食べられるだけでは観光客は訪れてくれません。その土地ならではの食材を食べたり、ここでしかできない体験や経験ができることを外に伝えることが大切です。</p> <p>【市長】 名称募集もひとつのアイデアと思います。知林ヶ島では恋愛成就をストーリーとしており、女性を中心に若者が訪れてみたいと感じる仕掛けです。「素敵な場所です」だけでは今は心に響きません。ここに来るとどう効果（体験・経験）があるのかも含めてPRをすることが大事だと思います。</p>	<p>商工観光課</p>
<p>【提案】 観光地としてもっと多くの人に知ってもらい、訪れてもらうために、トンボロ干潟の名称を募集してみてもいいですか。また、名称とあわせ、ロゴマークなどを考えれば、幡豆のトンボロ干潟の知名度も上がると思います。三ヶ根山から望むトンボロ干潟はとてもきれいです。トンボロ干潟を散策したり、三ヶ根山からの景色を楽しんだりするツアーを行えば、三河湾の雄大な景色や三河湾に沈む夕日に心奪われる人も多いいと思います。写真コンテストを企画するのもいいと思います。トンボロ干潟だけでなく、三河湾全体の魅力を伝えることができれば、蒲郡市などと広域的な観光振興も図ることができます。散策した後は、吉良温泉などに泊ってもらい、三河湾の幸を味わってもらってもいいと思います。</p> <p>西尾市には、可能性を秘めた素材がたくさんありますが、資源が埋もれたままで魅力を伝えきれていないと思います。幡豆地区は、自然を体感できることが強みだと思いますので、強みを生かし地域の価値を高め、住民の人たちがまちに愛着や誇りを持てるとういと思っています。</p>	<p>【質問2】 名称を付けることで知名度アップや観光地化が期待できますが、自然環境の保護と観光ニーズのバランスをどのように図っていくかという点が課題だと思います。この点について市長の考えを教えてください。</p>	<p>【市長】 自然環境の保護と観光振興の両立は重要なことだと思います。これまで以上に環境を守ったり、環境を保護するという考え方が高まっています。日本経済はものすごい勢いで成長・発展してきました。その時代は、ある意味、環境を犠牲にしてきたところがあります。自然破壊などの環境問題は、一度起きてしまうと取り戻すのに相当の時間がかかります。環境を壊さずにどう持続発展していくかが重要なカギとなります。トンボロ干潟についても、例えばPR効果が出て観光客が増えれば、ごみや騒音問題など発生する心配はありません。特に干潟は、漁業従事者から見れば漁場です。観光地化を図り、そこで生活する人たちに悪影響が出てしまつては本末転倒です。全国的に外国人観光客が増えています。幡豆地区も少なからず影響はあると思います。国籍によって文化や生活習慣の違いから、ごみ問題や騒音問題などはトラブルが多いことも現実です。外国人観光客数の増加があれば、ルールやマナーなどを多言語表示し生活者も観光客も困らない対応をしていく必要もあると思います。</p>	<p>商工観光課</p>